

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2004/07/03 Vol. 32

西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 16 年第 2 回定例会報告 (2)

いつもお世話になっております。印西市議会第 2 回定例会 (6 月議会) は、6 月 16 日 (水) までの会期で行われ、条例の審議が 1 件 (市民活動推進条例の制定)、改正審議が 1 件 (母子家庭、父子家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定)、平成 16 年度 一般会計補正予算審議 他、を行い、閉会しました。今回は、6 月議会での議案審議について中心にご報告していきたいと思ひます。

議案審議とその結果 (1)

議案第 1 号 「市民活動推進条例」の制定について

(結果 / 可決・・・私も賛成しました。)

(条例制定の趣旨)

多様化、高度化する市民ニーズに対応して行くためには、市民参加や協働型社会の実現を促進し、市民と行政がそれぞれの役割のもと、対等な立場で、協働し、まちづくりに取り組んで行くことが強く求められている。このようなことから、その担い手の一つとして重要な役割を果たす市民活動を推進し、活性化を図るために、市民活動の基本的な考え方や役割分担、具体的な取り組みなど、市民活動の保障を定義し、市民、市民活動団体、事業者そして市が、協力および連携して、魅力あるまちづくりに寄与することを目的に定めるもの。

(ぐんじとしのりより / 市民の皆様へ)

制度趣旨を理解し、賛成するにあたり、多くの質問を行い、回答を求めましたが十分な説明を求めましたが、納得のできる回答がなかったのは事実です。しかし、今回は「市民活動の推進を行うための最低限度の基準」として条例の制定は不可欠であると考え、消極的な賛成としました。

- 以下に私が議場で行った、条例制定にむけての意見 (討論) を記載します。

(ぐんじとしのりより / 条例制定にむけての意見 (討論))

今回の条例制定にあたり、私は現在、既に施行されている多くの自治体の同名や類似する名前の条例について調べさせていただきました。

今回の条例制定にあたり、印西市は(市民との)「協働」という言葉をどのように捉えたのかを特に注目しました。これは、多くの自治体で市民活動推進条例の制定にあたり、もっともキーとなっていると考えたためです。

協働の目的は何か? 効果は何か?

まさか、協働という言葉が「はやり」だから、理解もせずに使っているということは考えませんが、協働事業を単純に双方が何らかの協力をして行う事業であると安易に考えて取り組んだ場合、市民活動が行政事業の補完となったり、市民活動団体が行政に依存するという状況を促しかねないと思ひます。

市民活動推進の基本理念及び協働の原則に基づいて、市民活動団体との協働を円滑に促進する為、市民、行政の双方において「協働事業」についての理解を深め、共同事業の対象とすべき事業、及び委託や補助のあり方の見なおしも含めた協働事業の形態などの検討を行い、協働事業の形態、協働事業の範囲、必要な事務手続き等を定める協働マニュアルの策定、ルールづくりが必要です。十分にできているでしょうか?

(できていないのが実情です。)

印西市は、- 理念では対等ではあるが、実情は対等な立場でないことを十分に理解すべきです。

(行政との「協働」は対等の関係であり、互いに協力及び連携しながらまちづくりを進めるという。

これは条文にも書いてあります。しかし、現実問題として双方の「人・モノ・金・情報」といった経営資源、特に資金力と情報量には格差があることを考えれば、市民活動団体と行政の「協働」は、そう簡単には成立しない事に留意しなくてはなりません。)

- 助成について、市民活動推進の為には財源確保が重要であることもしっかりと考えてもらいたい。勿論、金銭的支援は事業への補填としてではなく、本来的には市民活動の経済的自立のきっかけとして位置付けられるものです。市民活動推進と自立を目的とする助成・補助制度を確立し、併せて補助・助成制度の透明性、公開性を高めていただきたいと思います。

しかし、忘れて欲しくないのは、この条例の目的は「協働」ではないということです。協働自体は手段です。誰もがこの「印西という街」を誇りの持てる魅力ある街として実現していくという願いがあるはず。そのためには協働してまちづくりをしていこうというのがこの条例の趣旨だと私はこの条例を考えております。また、条例をつくれればそれで終わりではありません。それらが市民にどのように受けとめられ、実施されていくのかを注意深く見守る必要があります。(特に今回は草案段階から市民が参加し、積極的に条例づくりに加わったことは高く評価すべきであると考えています。考えていただきたいことは、たくさんありますが、今後に期待して賛成討論としました。)

<参考> 協働とは「異なる立場のものが、それぞれの特性を認め合い、生かしながら共通の目的に向けて連携協力すること」をいいます。

印西市長選挙によせて ~ 「市政の大転換を目指して」 皆様に考えていただきたいこと。

私が市民の皆様から信託を受け、議員とさせていただき5年の歳月が流れました。この間、印西市の行政運営に関わり、多くの方々に出会い、意見を交換してきました。私が今迄の市議会議員選挙で皆様に訴えてきたのは、「市民参加のまちづくり」です。そして、今年、会派「市民自治ネットワーク」を結成し、「市民自らが考え行動する」という市民自治の理念を推進し、実現に寄与しようと活動を行っております。自治は市民が主役であるべきです。市政は市民とその市民から税金をいただき、業務を委託されている自治体の二つで構成され、運営されるべきです。

印西市はニュータウンだけで構成されているものではありません。市の新旧を知り、人口61000人を数えるこの街の、印西市の将来を見つめ、考えていただきたいと思います。私は皆様に「おらがニュータウン」の発展だけを祈って欲しくはありません。

印西市にある もうひとつの市街地の木下・小林地区、印西市の基幹産業である農業を支える 永治・草深・船穂地区の未来も考えて、そして、安心、安全の街を目指して、投票所に足を運んでいただきたいと思います。

私は、良くも悪くも今までの印西市の歩んできた歴史を尊重し、市全体の均衡ある発展を祈り、市民を裏切ることなく、嘘をつかず自分の信念を持ち、市民のための市政運営の中心となって働ける経験豊富な候補者を皆様と推して行きたいと思います。

- 市政は国政のいかに係らず、皆様の身近にあるものです。国からの援助が考えられなくなっていく今、市政の運営方針を大きく変えて行く必要があります。また、表には出てこない自民党/民主党の野合は許されるべきものではありません。(市議選だけ党独自の候補者を立てればよいというものではありません。)

私は皆様に公職選挙法の関係でこの紙面で全てをお伝えする事はできませんが、駅頭でのパフォーマンスやチラシの多寡に惑わされず、選挙広報をよくご覧になり、候補者を支える(議員を含めた)支援者もどのような方を見極めていただきたいと思います。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

ぐんじとしのり